

- 1 派遣期日 平成22年10月29日(金)
- 2 研修先 埼玉県飯能市立飯能第一中学校  
埼玉県飯能市双柳1-1  
<http://www.hanno.jp/ittyu/>
- 3 研修内容  
平成21・22年度 文部科学省委嘱事業 埼玉県教育委員会指定  
平成21・22年度 飯能市教育委員会 飯能市教育研究会 委嘱  
「道徳教育実践研究事業」研究発表会

(1) 公開授業

全ての学級(1学年5学級, 2学年6学級, 3学年5学級, 特別支援学級)で授業公開を実施した。

第2学年5組 主題名 きまりの大切さ 法やきまりの意義4-1

資料名 「二通の手紙」(出典「心つないで」教育出版) 授業者 落合 誠教諭

指導内容のねらいは、法やきまりの意識を理解し、厳守するとともに自他の権利を重んじ、義務を果たして社会の秩序と規律を高めるような態度を育てることである。ルールに関する事前アンケートを見てみると「問1 あなたはルールについてどう思いますか」の問いには「ルールは社会生活を送る上でどんなときも必要不可欠だと思う」を13名、「ルールはできるだけ尊重したいと思う」を13名の生徒が選び、「問2 あなたは、ルールを守っていますか」の問いには「いつでもどのようなルールでも守るように心がけている」を9名、「たまには守らないことはあるが、できるだけ守るように心がけている」を18名の生徒が選んでいた。

ア 資料の活用について

定年間際に奥さんを亡くした入園係の元さんが、入園終了時刻を過ぎた後にやって来た女の子と男の子に対し、規則を破って入園させる。しかし、閉門時刻を過ぎても出て来ない二人。園を上げての捜索により、一時間ほどして、池の側で遊んでいる二人を発見する。数日後、子供の母親から感謝の手紙をもらう元さんであるが、上司から呼び出され「解雇処分」を受けてしまう。

この資料では、二人の幼い子供を思う元さんの優しい気持ちと母親からの感謝の手紙、園の規則を破った元さんへの、社会人としての制裁である解雇処分の通知を取り上げる。人間としての思いやりや優しさ、そしてルール厳守の大切さを交えながら生徒に深く考えさせていた。

イ 授業の展開

まず、資料1として「二通の手紙」の内容の確認をし、「元さんが入園させたことをあなたはどう思いますか」の問いかけに自分の意見を発表した。出てきた意見は「優しい」「思いやりがある」「子供だけで園内に入るのは危ないからよくない」などだった。

次に、資料2として「母親からの手紙」を配布し範読する。「元さんはどんな気持ちになったのだろう」の問いかけに対し「うれしい」「感謝された」「人のためになった」など出た。資料1の内容では元さんの「子供たちを思っている行動」と「園のきまりを守れていない行動」と二通りを考えている生徒の表情が見られた。しかし、資料2が配布され内容を知ると、多くの生徒から「元さんはよい行動をとったと思う。」という意見

が出された。

そして最後に資料3で「上司からの通告（解雇通知）」が配布されその内容から「元さんはどんな気持ちになったのだろう」という問いに「厳しすぎる処分」「どうして解雇なのだろう」「悔しい」などが出された。

その後「入園させてよかった」か「入園させない方がよかった」ことについてグループ討議が行われた。元さんが解雇されるという結果でも、はればれとした顔でいたことに対して、「やってよかった」「悔いはない」という意見が多く出されていた。しかし、最後に担任から体験談を交えた話の中で「よいことだったとしても決まりを守れていない」「どちらが正しいか答えは出せない」という言葉があった。生徒たちは「どちらがよいか」と決めようと話し合っていた傾向だったので「どちらが正しいか答えは出せないこともある」と言われ、驚いた表情もあったが、話し合った内容や担任教師の言葉を聞いたことを自分自身の言葉にした感想をワークシートに書いていた。

#### 4 感想

平成21年度から道徳教育の研究を深めている飯能第一中学校での取り組みは、平成20年度の学校評価の結果の分析から重点的な指導項目を「思いやりの心」及び「規範意識」の2点にしばり実践していた。

児童生徒の問題行動や不登校等につながる課題を解消するために必要とされる「思いやりの心」「規範意識」をはぐくむためにはどのような道徳教育が必要か研修させていただいた。

学校全体で「道徳教育」に取り組んでいたなかで「ひとり一授業」と「積極的な授業公開」で全職員で授業づくりに取り組む姿勢を大切にしていたことを感じた。特に研究発表会当日に、県新人戦に参加した部の顧問が担任していた学級は学年主任が授業公開をしたが、とてもスムーズに学級の生徒たちが生き生きと活動している姿に、今までの積極的な取り組みの成果を感じた。

また、校内の掲示物等の工夫も感じられた。暖かい雰囲気を感じられる言葉や文字を階段や廊下に掲示され、生徒たちが日常的にその掲示物を目にすることで心が耕されていくように取り組まれていた。

「心の教育」は、主に生徒自らが感じ、行動できるようになる生徒をはぐくむことであると思う。感じたり行動できるようにさせるために、生徒たちにはいろいろな場面に出会い経験をさせてあげることが大切であると感じた。

このような、すばらしい取り組みをしている学校視察という貴重な体験をさせていただいたことに感謝いたします。